

発行日：2020年4月1日

長いご縁を大切に

前都立青島特別支援学校校長

水江 知子



新型コロナウイルスの猛威により感染防止対策が強化され、公立学校すべてが臨時休業となる未曾有の事態が生じています。この間様々な御対応に応じいただき、心より御礼申し上げます。

本校は創立74年目を迎える、知的障害のある生徒が通学する、高等部のみの都立特別支援学校です。高等部では将来の自立と社会参加に向け、作業学習の時間を多く設定しています。事務作業班では、もえぎの会様には封筒や各種印刷物の印刷、封入等を請け負わせていただいています。外部からの委託作業であるため、生徒の緊張感は校内印刷物を扱う際とは大きく異なり、緊張して作業に臨んでいることがわかります。本校では平成30年度より、作業学習による地域との連携強化、地域への社会貢献を目指しています。平成31年度(令和元年度)はすべての作業班で、近隣地域の店舗や事業所等と連携をもたせていただき、今後ますますの連携強化を図っているところです。本校はもえぎの会の様な事業所をはじめ地域の皆様とこれからも様々な形で連携させていただきたいと思っております。学区域の見直しにより、現在、本校では目黒区在住の方の人数は決して多くはありませんが、もえぎの会の事業所に伺うたびに、卒業生が生き生きと過ごしている様子を拝見し本当にうれしくありがたく思っております。

また、本校は東京都特別支援教育推進計画第一次実施計画の第二期計画により令和5年4月1日に高等部普通科に加え、新たに全都を学区域とする知的障害が中度軽度の生徒を対象に「職能開発科」を設置することとなっております。今後様々な形で地域との連携をさらに強化させていくことが必要となりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

これまで培われた、もえぎの会様をはじめとする地域の皆様との御縁をこれからも大切に、地域に愛され地域に貢献する都立特別支援学校として、今後もさらに努力を続けて参ります。もえぎの会様の諸事業の益々のご継続とご発展を心よりお祈り申し上げます。

2020年度 もえぎの会 事業報告会・懇親会のご案内

下記のように本年度の開催を予定しております。

7月18日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

改めて、ご案内をお送りいたします。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。



もえぎの会 2020年度事業計画

2000年に、無認可の作業所から社会福祉法人として認可され、生活介護事業と就労継続支援B型事業に移行した。その後、共同生活援助と就労移行支援事業を新設し、障害福祉サービスの拡充を図ってきた。さらにサービスの品質向上を目指しつつ、併せて運営基盤の強化を目指すことが求められている。課題が山積するなか、法人設立20年を迎える今年度は各事業のさらなる質の充実を目指す計画に基づき、きめ細やかな事業運営を実践する。

1. 運営基盤の強化

法人の財政状況は年々厳しい状況となっており、収支を改善し中長期計画に基づく施設整備の資金の確保を行う必要がある。

収入増につながる利用者の増員やサービスの提供内容等を検討し、報酬の増額を目指す。さらに販売実績を高めるため現状の販売状況を分析し対策を講じる。支出においては、スタッフの適正配置により、人件費を抑制するとともに、経費の抑制にスタッフ一丸となって取り組む。

2. サービス提供における情報共有と情報の精度の向上

利用者や家族の高齢化に伴い変化が激しいため、正確な情報をスタッフ間で十分に共有し、組織的に対応することが求められる。今年度は従来の記録の様式や種類等について検証し、組織的な対応とするため、情報の共有化や記録の精度を高める仕組み作りを行う。

3. 就労移行支援事業の利用者確保

関係機関との連携を深め、利用者の確保に努める。また就労支援センター等の関係機関との連携を深めるとともに、就労先の開拓を進めていく。

4. 沙羅の家 業務標準化の改善

沙羅の家は、沙羅の家清水の開設によりユニットが倍増した。沙羅の家として業務の標準化を図るため、今年度は制度に則った適正な事務処理方法を検討し、書式や業務手順書の改善を図る。

5. 短期入所の緊急利用の受け入れの拡大

短期入所は開設後2年が経過し受け入れの人数も増加し、運営も順調となってきている。

しかし、利用内容は半分以上が体験利用となっており、緊急利用に十分に対応できていない状況である。今年度は、スタッフとともに検討組織を設置し、対策を検討し、実現につなげるための課題の洗い出しと解決をしていく。

学芸大学店 開店感謝祭

2009年1月に開店した学芸大学店では、1月に開店を感謝して20日から24日まで5日間、感謝祭を開催させていただきました。お買い上げ300円ごとのポイントを2倍にする特典、期間限定のパン、マフラーや織物のセールなどを行い、通常よりも多くのお客様にご来店いただきました。



また、学芸大学店はその立地から、今後商店街や地域で役に立てる機能を担っていくことを目指して準備をしてきました。これから具体的な活動を進め、より地域に根ざした店舗として皆様に貢献したいと考えて、利用者・スタッフ一丸となって活動して参ります。



限定のスイーツパン

第18回 しいの実祭 開催

恒例のしいの実祭が2019年11月30日(土)に開催され、今回も多くのお客様にしいの実祭に参加していただきました。

自主製品のパン、クッキー、手織りマフラー、紙すきはがき、布製品などの手作り商品の販売に加え、日々の社員の活動の紹介を行いました。持ち場担当の社員が活動の説明をしたり、お祭りを楽しんでいる姿が見られたり、参加していただいた方々に少しでも理解していただける場になったのかと思います。来場された方に多くの商品を手にとっていただき、しいの実社の商品の温



恒例のオープニング



今年もありがとうございます

かさかさが伝わったかと思えます。また、模擬店や後援会によるバザー、目黒区内の障害者福祉施設による販売などもあり多くの方にご協力していただきました。

館内では自主製品販売の他に子ども向けのイベントも開催されていて、笑顔で参加している子どもたちもたくさんいました。大人も子どもも満足していただけたお祭りになりました。これからも皆様

に喜んでいただけるような多くのイベントを企画して参ります。

今回も多くの方々の協力を得てしいの実祭を成功させることができました。本当にありがとうございました。今年は11月28日(土)に開催いたします。皆様のお越しをお待ちしております。



素敵な帽子！



ムジーク・ガルテン・クロキ (MGK)による演奏

子ども食堂とのつながり

最近よく耳にする「子ども食堂」が、目黒区内にも、10か所あります。地域の個人や団体が自主的に子どもやその保護者に無料または低額で食事を提供する取組をしています。

しいの実社でも、いくつかの子ども食堂に、しいの実社のパンを提供させていただきご縁ができました。

今回は、NPO法人めぐろ子どもの場づくりを考える会



こどもば(以下通称である

「こどもば」と表記)をご紹介します。「こどもば」は、子どもたちが地域社会の中で見守られながら生き生きと過ごせるまちづくりや人と人とのつながりを作ることを目的に活動しているNPO法人で、子ども食堂に限らず子どもの場づくりに取り組まれています。

子ども食堂というと貧困問題への取組という印象がありますが、実際には地域の親子だけでなくいろいろな人が集まる人と人とのつながりを作る場づくりとなっているそうです。

このような場にしいの実社の製品が少しでも役立てることは、とてもありがたく、少しでも地域貢献するために今後も応援させていただきます。



医療法人社団 KSハートメディカル ハートクリニック南千住

荒川区南千住7-1-1
アクレスティ南千住医療モール305
TEL 03-5604-0810

南千住の駅前にそびえたつタワーマンション内にあるハートクリニック南千住の館岡克彦院長・佐知医師にお話を伺いました。

2010年に開院されたクリニックを訪れる患者さんの年齢層は幅広く、3世代で通院される方もいらっしゃいます。診療する際に大切にされているのは不安を抱えてくる患者さんに、わかりやすい言葉で丁寧に説明すること、気持ちを相手にしっかり向けた上で丁寧に話を聞くこと、来た時の不安を取り除いて安心して帰っていただくことだそうです。婦人科は、よりナーバスな気持ちで受診する患者さん多いと思われるので、まず婦人科は怖いところではないことを知ってもらうこと、そのためにはできるだけたくさん話を聞くことを大切にしているという佐知医師の言葉に寄り添う気持ちを感じました。ご夫婦であるお二人ですが、仕事の上で「お互いの医師としてのスタンスは同じ」とおっしゃる言葉に強い信頼が伝わってきました。



館岡 克彦院長・佐知医師

もえぎの会に入会していただいたきっかけはしいの実社に通う利用者さんご家族とのご縁です。医院には障害をもつかたが来院されることはそれほど多くはないということですが、意思疎通が難しい方の診療をされる際には言葉が通じないとしても、ご本人の目を見て、気持ちを向けて語りかけることを心がけておられるということでした。

人と真摯に向き合い診察をされる克彦院長と佐知医師、地域の頼れるホームドクターと呼ぶのにふさわしい素敵なクリニックでした。

人と真摯に向き合い診察をされる克彦院長と佐知医師、地域の頼れるホームドクターと呼ぶのにふさわしい素敵なクリニックでした。

目黒原町会



廣瀬晶久会長

沙羅の家清水がお世話になっている、目黒原町会の廣瀬晶久会長に、グループホーム沙羅の家清水の建設前から現在に至る地域の目から見た様子などをお聞きしました。

目黒原町会は、下目黒6丁目のほぼ全域と、目黒通りを挟んで中町1丁目の一部を区域としており、廣瀬会長は会長歴12年目のベテランです。現在も地域で何か困りごとが起きた時には、まず現場に足を運び自分で確認することを大切に活動されています。

沙羅の家清水のある旧目黒第四中跡地利用については、住民のニーズと区の意向が合致した形で総合的福祉施設の計画が進んだそうです。グルー

プホームの建設についても、総合的な福祉という観点から、地域の人も理解し、運営が社会福祉法人であることや、実績があったことから信頼することができたそうです。住民の個別の意見にも法人と一緒に根気強く対応したことで、完成後に問題は出ておらず、入居した利用者さんの暮らしぶりも、静かでこの住宅地になじんでいるというお話がありました。

地域福祉の良いモデルとしていきたいという力強い言葉をいただきました。地域を愛し、自信をもっているからこそ廣瀬会長をはじめとした町会の皆さんに、広い心で私たちを受け入れていただけたと思います。沙羅の家清水の入居者は、町会の会員となり、町会の行事にもできる限り参加して、お世話になっている地域に少しでも貢献したいと考えています。



秋の例大祭

合名会社 島崎屋金物店

目黒区五本木2-12-2
TEL 03-3712-5373

現在の忠裕社長が、4代目となる1868年(明治元年)創業の、歴史あるお店です。
明るく広い店内には、台所用品から収納用品まで幅広い商品が並んでいます。
店内の事務所で、祐天寺駅や、昭和通り商店会界隈の変遷や、島崎屋のルーツなどのお話を伺っている間にも、お客様からの問い合わせの電話があり、丁寧に



店舗外観

対応されている様子が伺えました。

ネットで何でも注文できてすぐに届く時代になり、店頭での販売は難しくなっているということですが、先代が始められた区内の学校や施設への納入が、商品内容は変わりつつも商売の多くを占めるそうです。



島崎 忠裕社長

その中で、学校に納入する品物が以前は消耗品が中心でしたが、今は食器が多くなってきたということです。そして「食器」は、島崎家の家紋にある「柏の葉」が意味するものであり、ご縁を感じているということでした。

気さくなお人柄の社長、趣味は鳥の写真を撮影することで、数多くの美しい写真を拝見しました。さぞ遠くまで行かれると思いきや、林試の森など区内でも撮影をされることがあり、他も比較的関東近郊が中心とのこと。それでも10年ほどの経験の中で350種類の鳥の写真を撮られているそうです。

お店で出迎えてくださった5代目や奥様も暖かく、ネットが中心の時代になっても、親身に相談に乗ってくださる頼もしい存在です。

しいの実社でも今まで通り、長くお世話になりたいと思うお店です。



左 アオバトのオス 山に棲むハトですが、海岸で海水を吸飲するために群れ山から飛来します。木の実を食べおなかの調子を整えていることが分かってきました。



右 アオゲラのメス 林試の森で出会った29cmの大型キツツキの仲間、日本固有種です。

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家の誕生日祝い

沙羅の家 世話人 福田拓哉

沙羅の家向原の利用者さん7名のうち4名が10月から12月にかけて、お誕生日を迎えます。今年も誕生日当日の夕食やケーキの希望を聞き、皆でお祝いをしました。

夕食のリクエストにはグラタンやオムライス、ステーキといった洋食もあれば、天ぷら、そば等の和食もあり、普段とは少し違った夕食をお誕生日ではない利用者さんたちも楽しめます。

お祝いのケーキではプリンをご希望する人もいて、通信販売を利用して直径20センチほどの『バケツプリン』なるものを用意したことも



ありました。あまりの大きさに驚いたような反応をしていたのが印象的でした。

沙羅の家は火の元に細心の注意を払い、全ユニットがオール電化になっていますので、向原ではケーキのロウソクもLED電球を使った『電気ロウソク』を使用しています。通常のLED電球では眩しく感じる事もありますが、『電気ロウソク』は、淡い光でお祝いムードを盛り上げてくれました。



2月11日祝日イベント

沙羅の家 世話人 伊藤 香 菊地栄美子

沙羅の家では、祝日の休日を利用して、普段の生活では経験できないイベントを企画し、楽しんでいます。

2月11日建国記念日は南・向原・大岡山の3ユニットと清水の3ユニットの2グループに分かれて実施しました。

南・向原・大岡山の3ユニットは、原町住区センターで開催しました。南の増田さんの挨拶から始まり、皆で乾杯をして料理を食べ始めました。食事が終わり今年度の振り返りのスライドショーが始まりました。どれも思い出深いものばかりでした。最後にサプライズで大岡山の鷺頭さんのハーモニカの演奏があり内容も盛り沢山で、皆さん楽しめていただけたようです。



原町住区センターでイベント

清水の3ユニットは、同じ建物に居ながらも3ユニット一堂に会す



清水はビュッフェで食事



腹いっぱい満足顔で

る機会がないので交流を深めるために飯田橋メトロポリタンエドモンド「ベルテンポ」へ行きみんなでランチbuffeを堪能しました。

和洋折衷豊富なメニューで、みなさんそれぞれに好きなものをお腹いっぱい召し上がっていただけたようです。

編集後記

新年度が幕を開けました。

今までにない状況ですが、笑顔と感謝を忘れずに、コロナに打ち勝ちたいものです。(岡田)

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

